

虛實情狀夜機



2132  
27



虚實情夜櫻

うそとまじりあそびのよがさう  
 心こころのよあがざれんはるまじさる  
 見まゆゆぎぎ喰くへへとと色いろ甚あま味あじいいを  
 知しぶぶととハま實まことありうを遊あそ女よめに  
 うけつめぬらす杜いと人ひとハおの己のま



か 更食を忘れ也一 都座  
の 獨つて夜一 神く 夜  
を くらふ夕を 朝 時よ  
下を みる けり なる けり  
高き 石の けり なる けり

魚道へ 踏込て 批燈を くら  
や くら なる けり なる けり  
て 肉の けり なる けり  
ふる べし なる けり なる けり  
を 知ら なる けり なる けり

るもな<sup>まへ</sup>く<sup>うら</sup>通<sup>うら</sup>が<sup>うら</sup>た<sup>うら</sup>く<sup>うら</sup>究<sup>あま</sup>  
を<sup>し</sup>知<sup>ら</sup>ず<sup>ら</sup>故<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>虚<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>実<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>類<sup>ら</sup>せ<sup>ら</sup>  
と<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>ち<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ら</sup>也<sup>ら</sup>者<sup>ら</sup>  
さん<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>た<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>類<sup>ら</sup>せ<sup>ら</sup>  
赤<sup>あ</sup>め<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>知<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>決<sup>ら</sup>め<sup>ら</sup>

ア人すよといふ

時申をいふ

月もあは

梅松亭

勝よんや

庭鶯

美の雲





よい 月夜虚言

夜半の月夜虚言  
武蔵守が格子の換箱  
うらまなふも未路が  
おがるくんの来るがどハ  
白やと見る。

うらまなふも未路が  
虚の夜櫻

よ あり 月夜  
夜半の虚言

たましあふせご福の極  
とあり夜半の月の換  
板自雲をまのた断が  
鳥一さ人ののろぞとハ  
おをまといふ

ましよごさ  
實の夜櫻

らサ 月夜  
月乃情言

逢て別り人月の園日  
おまはまは方の換板  
敷のまて来る武蔵守  
うらまなふも未路が  
おがるくんの来るがどハ  
白やと見る。

おまはまは方の換板  
情の夜櫻

虚實情夜櫻

二月の虚言

庭我鳥述

月行春乃山見て花を  
見まつるかり  
うらまなふも未路が  
おがるくんの来るがどハ  
白やと見る。

名沙りななくハアイヤア  
庭我鳥述

下女 モシ 月乃さんへ  
今銀蝶さんがいらつ  
つ  
いままは 言ハ希 ナニ  
銀蝶が来たところをやく

おつちへあぐれと云てらつちやそして茶を  
 持て来いませう用がめる火も消てしまつ  
 たおよく持て来い女ト云つてありをいしく入らつて  
 言さんけつるイヤモウたゞ碎て肉までむち  
 うらうくでうへの子おちまはやく  
 へぞうぞうト云つたりヤれおちるをさるはうち女は茶  
 を持てお銀蝶がーヤれよつちくひめてやさ  
 いごー茶えんの茶ををらうくとこわー茶を赤くして  
 ちやぞうぞうと云つたりやそのかきで  
 女 ちんくくト云つたりやむを味いおがら 蝶 なうぐの故てト

けぶうの子此鼻をうむと、はようちどあたふ  
 女 ヲヤかまいとふに ト云つてのさへふげおむは四言以帝  
 まいハ化むくなりうはは孫づとゆさーぬづきもらすまた  
 よて母をたもちをはさすまべのニまいうらけおむりハア  
 りんめ小紋おさがりみドくけぬき合せめ思ううらよさら  
 一の是袋をささるのドよ  
 言 サアいぐ 蝶 おちち  
 言 ニア肉トヤア  
 蝶 おつち  
 蝶 おつち  
 蝶 おつち

言 コレサ 親おびと 知とこアいうら見はけられ  
 福へうちをやくおつけよふ おしも親おボラ  
 くく 上くのやい 且ねおうごいめーませんく  
 おやをくめーつまよーふ 友人の足がやよめさ  
 ライ加馬 ライくくー 友ど名はあふ日本橋  
 西よ形城高くこーて夕や辰たおむさ東  
 又入海満ここーて白鳥の母らきーとく  
 ども空をうらむるまをやくより遠お人ハ

三拾又の格乃齒をむくよことあらうん。  
 市仲北青ハ板其音のうへおどり 妙定の  
 舟のまらびハあまれ古きよ踏つぶされ  
 腹のさきうらふでうちハ屋といえせの  
 ぶあけよおつる鼻をさくまむ  
 二人が足のおやこらみ 二十四時のむさやく  
 の也ー おしも向ふよりむくをうらぎ西尺わどの刀とさー  
 トに誇ちうらんをさくよま黄八丈のあつぎいま  
 りちらんゆさけよよこーかー黄ーまよ一日照けら



きて目をかり 泣く事よおはわらう代 死者の眼み 千里も  
 ありん遠まうらの 勤番乃お人も又へう 御らまはけ  
 二人と見え 知らぬ 言 マイしく さいんどやア福へ  
 ありよてり なるを 六 せつうく 迎あせれとありつ されたいふ  
 おふらう ともあさ せうらた 絲蝶 蝶 あめく ませ  
 そんなに けきあい 今 物うら おめくの所  
 へ七夜 態 望く之夜 あさご 極 極 八月 集 集  
 じやア 福へ ぐ 思くの 裏が 百く せまら けさ ー ー ー  
 かんらん びんき であ ー かり 福へ 大き びんき ー ー

こまるに 日 暮 暮 ちサア 北国 北 へあつ ー ー ー  
 侍り 里よ ー ー あり ー ー ー ー ー 六  
 すん ちあ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
 下 蝶 あに ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
 ぐ 雑子 子 ぐ なく ざう ー 言 モウ 沃山 沃 ぎよ  
 六 さん ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
 の よろ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
 来 来 ぞ せ 六 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

兄よぶがうらちのまけをくましく。か  
一庵んさくして孫言ナアニまうのまさうく  
いのりさまのつちがたこまら婦女ゆめ節がこま女  
町まちさよーうへも花所の客をさか武彦むさしを  
こま女よいろまひりけでこままじこのま。  
そあで今いむさーのあうへうよあま  
あこまいあせくこま女所もかやううく。あうこ  
でいるあまきども。ごまよーうううがこまあ  
こま

ううぜんてへ肉がまのうのさうんむさー  
あまがこまあまでもあうううううらわつて  
あいらやアぜんてへいさ後まら孫六のさ六そこ  
下あいらがまいさあまをうつて。そまー  
こ花所と色るまをしうまとまのんどの  
言うあへこまあうごうく六着い尾いよくいさや  
あまぐみさ様ナニいくのさあいなわあ  
りらむまどい村のまづらあまーとらふ





さ[置]は係切しんせつであつてもまはれ孫かん言さん言かんを  
 サ嬢じやうさんのよろろ。あんなせりな人があつら  
 ちや。廓くわくお月の東よハ孫かんとつふもつあん  
 ちや。人こらハ笑こらそれ終おへふめへの鼻はなろつと  
 柄こまのまみよごごらけでイサちつとま  
 をやくおちあよう[置]さようからあうく  
 笑わらに[孫]をんあらお置おきさんけつるよトおりこ人  
をれを右みぎも左ひだりりもま去しやうとん久く人間にんげんらつとみ十年

を笑わらよくらさばめんきんの愛あひよらもあを  
 西にしふうらんとうれれ口くちふふよりあちわいらん先  
サてを引ひれれちちううらんり遠とほふ  
 コウくく六むさん今いまのが々が交あ法はふ者ものハ頼たのとあげ  
 たよんねひうの[六]ツワサまきハ創つくあめめされ  
 ちいらと横よこ目でえくつとごごうだ嬢じやうふ  
 いら男おとこがごうもうるせへんごよ[孫]ナアニお  
 めへのありがあうーいらえて笑わらつてつと  
 のさだまごうえても。急いそぎ松まつまへのお方かたと不

るやア兄へ祈しものを<sup>シ</sup>敬<sup>シ</sup>次第もよろあど。  
でたごせト<sup>一ツ門をくさるを</sup>知いよはれて又天人のあまぢりた  
りよとく物遠れ<sup>あこま</sup>命をみごさび。身どかく  
かいらんあれ<sup>あこま</sup>ばと哀をかく。ゆらも物あま  
らよ<sup>あこま</sup>勢あつまば<sup>いん</sup>あま<sup>いん</sup>い<sup>いん</sup>の<sup>いん</sup>づらう。楢<sup>いん</sup>  
子よ<sup>あこま</sup>容を<sup>あこま</sup>お<sup>あこま</sup>く<sup>あこま</sup>亮<sup>あこま</sup>あ<sup>あこま</sup>ま<sup>あこま</sup>ば<sup>あこま</sup>強<sup>あこま</sup>お<sup>あこま</sup>り<sup>あこま</sup>の<sup>あこま</sup>ま<sup>あこま</sup>こ  
ま<sup>あこま</sup>ぐ<sup>あこま</sup>ま<sup>あこま</sup>と<sup>あこま</sup>ひ<sup>あこま</sup>く<sup>あこま</sup>新<sup>あこま</sup>遠<sup>あこま</sup>も<sup>あこま</sup>ち<sup>あこま</sup>ら<sup>あこま</sup>と<sup>あこま</sup>。よ<sup>あこま</sup>う<sup>あこま</sup>り<sup>あこま</sup>と<sup>あこま</sup>。兄  
ご<sup>あこま</sup>う<sup>あこま</sup>の<sup>あこま</sup>あ<sup>あこま</sup>う<sup>あこま</sup>ー<sup>あこま</sup>先<sup>あこま</sup>に<sup>あこま</sup>ま<sup>あこま</sup>ぐ<sup>あこま</sup>も<sup>あこま</sup>み<sup>あこま</sup>て<sup>あこま</sup> 珠 六 い さん

く<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>物<sup>えん</sup>遠<sup>えん</sup>は<sup>えん</sup>よ<sup>えん</sup>も<sup>えん</sup>新<sup>えん</sup>言<sup>えん</sup>な<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>。は<sup>えん</sup>ト  
く<sup>えん</sup>を<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>ち<sup>えん</sup>中<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>な<sup>えん</sup>女<sup>えん</sup>ご<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>ウ<sup>えん</sup> 六 あ せ ご 珠 六  
ら<sup>えん</sup>ほ<sup>えん</sup>く<sup>えん</sup>に<sup>えん</sup>よ<sup>えん</sup>ぐ<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>う<sup>えん</sup>を<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>い<sup>えん</sup>と<sup>えん</sup>ま<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>よ<sup>えん</sup> 六 あ も  
し<sup>えん</sup>ち<sup>えん</sup>く<sup>えん</sup>も<sup>えん</sup>物<sup>えん</sup>へ<sup>えん</sup>らん<sup>えん</sup>な<sup>えん</sup>と<sup>えん</sup>を<sup>えん</sup>や<sup>えん</sup>ア<sup>えん</sup>神<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>ほ<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>  
し<sup>えん</sup>ぬ<sup>えん</sup>い<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>げ<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>う<sup>えん</sup>角<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>る<sup>えん</sup>へ<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>く<sup>えん</sup>名<sup>えん</sup>を<sup>えん</sup>し<sup>えん</sup>さ  
と<sup>えん</sup>云<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>う<sup>えん</sup>ま<sup>えん</sup>り<sup>えん</sup>ち<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>う<sup>えん</sup>け<sup>えん</sup>角<sup>えん</sup>も<sup>えん</sup>衆<sup>えん</sup>神<sup>えん</sup>ま  
の<sup>えん</sup>く<sup>えん</sup>さ<sup>えん</sup>い<sup>えん</sup>め<sup>えん</sup>と<sup>えん</sup>し<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>が<sup>えん</sup>ま<sup>えん</sup>ご<sup>えん</sup>ほ<sup>えん</sup>し<sup>えん</sup>た<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>よ<sup>えん</sup> 珠  
い<sup>えん</sup>ず<sup>えん</sup>の<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>と<sup>えん</sup>入<sup>えん</sup>ふ<sup>えん</sup>ア<sup>えん</sup>あ<sup>えん</sup>れ<sup>えん</sup>と<sup>えん</sup>も<sup>えん</sup>そ<sup>えん</sup>ら<sup>えん</sup>つ<sup>えん</sup>

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

お嬢ーヤッ

とまじく

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

トまじく〜  
お嬢ーヤッ

うアさいまー。あちらにわさるんところら

ございほすうら [ち] ういありほ。ちよで

ハコおーのりのハアくあつあつあつあつあつあつ

るりうらけ。まきまきうらうらうらうらうら

ーつうらアくあつけくおく [言] よらー

ございます。おあずうりサアア

おあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

りくるおあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

りくるおあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

りくるおあぐんをさいまー

らとあぐんをさいまー

よふいらつーやひましく 内田言次郎ハ **言** コウ

伊八とんちよろと来たな ト志がくそまた又を後

そくとうねと **花** とあこむより おおあんーと

言さんけるぬーはおせーやいーと そひ 中

まうちまぐらろぶがまーいーたまふいつと

こまがめめくあるんせん トこふすハ花弁の姉也

りーちハ本 **武** **東** あつまハ浪蝶ハこの **話** ことと

ちのこもふお出あんーと 蝶さんけるのりのを

ごうあんーた ト知ハ **蝶** ガウ云 蝶 まも

まふらろへ入て いれ さむ いめいさせやアー 蝶ハ

**話** そく ーて つ ち あ ー す 入 持

おいでなんーと **蝶** ごう こい ま お ま り ハ

いろとこ 文男がする ま 幕 た ー ら ま ー ち ハ 蝶 と 梳 ど

**話** お ぶ ー ま ま あ ん す な 今 う に あ つ て お ま さ

らうで お は い よ 文 男 と ハ あ ん の こ つ て お は い へ

ト り き ら **蝶** ア ー い ち い と 成 は ら ま ー た



モシ 六右衛門さんこれは持あまさまーたから  
 もごかりながらさーあげまふ言げさんちよ  
 つとおとうつぎ城六イこいやくいもサ  
 さいせんぐらスキとすごーしてヨいなるから  
 様 すんあらしさーはめ言げんさんのああけい  
しや。たいと持へうり。ちようりーの持りの。ーげさま。まごつくお  
 段をん飛孫ひる走ハ彩遠の年つとうよ。さもをづぶー。す  
 後よ。知つとうようよ。けいひるまのめりやをみハとあう。産者  
 まで情をまさるにむく産者もむさんとあふた産者へ  
 出様

武ヤヤごもまださおいんーきくらぬーやアあ  
 でおまへ。うちよの国々あんなすのく様の  
 るごんやア孫へ大めりさ。あめり大根の切ぎん  
 ぼーとらつとてめいごこーらつと。かたち  
 ござ時とさはゆうまんのあひくハトはをさ。是だ  
 くら。ごふぞおねみごよ。あアやアま  
 トな人ごうら。ごふぞはらアさーせ孫へ  
 とうふーして。らんたまさ。そーしてまららのト





ら。なよらうわうーくあまあうあら。あうーん  
よーのー  
とせおせ像子をあけて [三] ヤヤもごいお  
やすーあんとんくおいらんで。おつせんす  
おまめおごくさんすご。やくがおこつらんー  
て今うまをりをきぎて。おいらさーきいよ  
まいつらんはうらぬーによくやせと云あん  
ーてそーして。あすこで 祿 寝ておつごあんす  
トのうと。さうてせつせん [五] ウーウッ、そごロ、うう  
下云也入まさと

トあうー鳥を [一] ヤヤあーうあんよ トあひまご  
あうーてらふ [二] ちよらうあんよ あようどを  
たていつくともなくおあうははおぞうませりのよてらう  
がどもを實とおひいあぐさこよあうあうーあうあま  
くさーかことあの人ども又あうーくおとら屋の中よ [善所]  
あうーらんの新う。とあうああよ三人のあー声  
そをあの婦  
女席たより 今うのいまうであんよもあをたあーやい  
せんが。あーあはあんでニアまうちうがうら  
なよりのでも婦 あふ とあもつてあらんあんーて  
ふよ 何うらあにまだ。あよあまうけして。と活とー  
てあらんあんにあうはううく死んで あひ もあれ

いせん。あうづごめをいぬ。ぬーのよーななあん  
つなりのを妹いもとつぬあんよりのい  
おんが。あうづらぐーやまを。あうづらのよふあ  
めんが。いを姉あねとあうづつとあらんあんに  
ぬーい。あーあはせとも思ひあんーようぐうぐ。何なに  
もらき世と。あさうらめしあらんあんー あ  
ぬーい。今いま夜やようぐつとあせそんあよふ不  
そいふあおんあんすくそーして。アアまをま

いあんすと云いたのんーととつ 町まを事ことで  
おん今いままでいあうくーやいーとあれどを。  
是をどよまをぐ。あうづらのゆめをあうづてお  
くんあんすぬーあ。あをふーやいす。よふ  
くまいてあらんあんー。あうづらもえうり  
うふままいや。いあでもあらんせんあれど  
も。あつとーたるあうら をとまの春はるは川がわへ  
うらんんーて。ほい つさあごーのこまあうら

思ひをめぐらぬのいんぐま。二世とやくそく  
しつた人ハ。ま幸の著せし。親をちが。や  
うほくめんごふをうけめんし。あつらう  
しまがらんめんめんあつごふぞうちら  
おのほぐくこけ。みつぎやてあめん志  
よおめほらいつとめのみまをうあめぬーた  
つらうの業ーみと。まこーほくのゆきいまで  
おらうてあめんー。ま也よ。あつと。月夜

おさめんーこのも。おさうのめんおーめん  
したあつ。ごんくこ。おめんをんーて人參  
や彼をで。ごのほまうハ女のめんご。難  
養をうらハいとつんちんが。それうらーてハ  
ごふめんーたるや。ら。おとづまもまび無  
の返るも人をねんで出て。めらいめんに  
う一日くこ。おもんた。んすよふほあま  
つちもほくぐ。思ひんにハ。あんのんらま

でいようけらきぐ仲ななるうためを思ふ  
るよいんまよいんあまえいてまいら  
していいあらくとぶららんて勤いひや。  
ほいむいらんのおいをいてかいんあんす  
のいめんごうでくをまつてをらいか  
アいーご目めいんのいんあんいかいあいも  
そいららつちやアもいちららいちら  
といんをまいらいちらないかいいんいんいん

命いのちのあらわちらうて。えいがいさいらうあいと  
大おきくめいがいのいをいてとこごらつと  
出いるまいあんなまいといくいんいか  
こうちも。あいやいあいでもあいていんいさん  
いいんいけいでいいいきいらいぬいのいいいが  
ないをいんあんいて又まいるいのいやあいい  
らいといいいあいんいたまいいはい目めいいさん  
のいいいあいすいあいもいさいけいバい新いさんいが







ておらんあんすねーきち曲<sup>まが</sup>若<sup>わか</sup>も使<sup>つか</sup>ふ  
なつておらんきんきもあつらんーやうき  
うちあけておらんーやあんす。うちが<sup>うち</sup>因<sup>いん</sup>  
より一<sup>いち</sup>里<sup>り</sup>むらう。はあまておらんすおの<sup>おの</sup>ん士<sup>し</sup>  
のむきで。あつらんーこがうちとアノ<sup>アノ</sup>言<sup>げん</sup>  
さんの<sup>く</sup>まづけのあらん<sup>い</sup>の<sup>を</sup>。知<sup>し</sup>あがら  
うちをむむむい<sup>い</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>う</sup>と<sup>ま</sup>を<sup>ん</sup>  
すの<sup>を</sup>お<sup>と</sup>う<sup>さん</sup>が<sup>火</sup>さ<sup>に</sup>後<sup>あと</sup>を<sup>た</sup>ち<sup>あ</sup>ん

してとまうにわいであんーた。まうあ  
は<sup>これ</sup>誰<sup>たれ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ば</sup>。や<sup>み</sup>く<sup>と</sup>む<sup>ら</sup>う<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>  
あ<sup>ん</sup>ー<sup>た</sup>。ま<sup>つ</sup>時<sup>とき</sup>は<sup>ら</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>ら<sup>い</sup>あ<sup>ん</sup>  
んー<sup>て</sup>。ま<sup>も</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>死<sup>し</sup>な<sup>ら</sup>う<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>  
て。あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>  
ら。あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>  
あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>  
て。あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>  
て。あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>あ<sup>ん</sup>ー<sup>は</sup>



よお後そうごえして。もうちらが福ふくのけしとめ。おや  
のこめいひ妹のためと、おのこもえおのこのこをこりハ  
みちよこしーゆーおひんするやア、生うまれ  
ぬ先さきづあひーうをぬ 略 めをやる ありむと。お  
めへさんごこのおとあーおんすのをやまへん  
して。ほくらぐーおひんするやア、もうちらやど  
ぢちの。あつたりあつたりのハあつせんせんせんあへぐ  
せうさめをるんすのも。もうもうーとあひ

あつせんすのやア、おめへさんごこのにも。おを  
づうーくつぐ。はあされいせん 略 ううううお  
あておゆーてんおんすうーぬーも。うちらあけ  
ておややせをるんー 略 かのあらげおあひをんす  
ナさんげ又罪つひもむをやら。おんはうら  
かもかーおんせう。ぬーきをちらの孝こゝろりや欠  
んよううてかまう。おのーたらをいこせん  
トこが。もうおもいんするやア、よくーアあう生うま

ておつよーごうおーごうでねト又たをそおー  
夢 おいもけかうで。おくーちんすりことち  
あつもんせん。ほくまほもかしておませお  
んー 略 おつーかんちう。すておらんあ  
ーもうちのちのちさん。は。高きをーして  
おつであんすおつ川。あつおつもんーを  
もうちうてうごナ四のまき。品川へさあん  
て。茶ををわーちんーしてうーニ夕月をう

アおつもんはうち。を所へ。ほをうらふよ来て  
いあんす。松さんと云々の白い目をかごら  
のり。男であつもんーごう。あつとーしてん安  
くさーいーして。まごぬーのんもあまぬ  
後汗のあつへ。おつて。集つもんーして。そこよ  
もうちごう。十日をかりうらひうち。年のいぬ  
んうら又。おつが。息しくおつて。来ておつて  
あんす。お加青の丸をきぬして。うらうく

江戸へ遊ユサてくアまんして。お身み雨あまよーばらく  
おアまんはらち又トお身みなるを、席まくら下したをさく  
様さま六むさんハイおらどちおへおめんおせト様さま子こ  
つておおモもちらつておをおーおらんー様さまイへ  
へでる。おおモもちらつておをおーおらんー様さまイへ  
くおはとおけおせおらおせいさ。今いまもおらお  
どはなしとらお身みへ遊ユサてお身みしとら。も  
うおせてくつておアまんはいてお身みおらお  
アおアやせん。どうも女おんなハワくがうハおくどけが

さつさトお身みおらおアまんはいてお身みおらお  
おを油あぶらけてお身みおらおアまんはいてお身みおらお  
様さまとつてお身みおらおアまんはいてお身みおらお  
おん様さまがに油あぶらおらおアまんはいてお身みおらお  
おつまおらおアまんはいてお身みおらお  
もつてお身みおらおアまんはいてお身みおらお  
おらおアまんはいてお身みおらお  
おらおアまんはいてお身みおらお  
おらおアまんはいてお身みおらお  
おらおアまんはいてお身みおらお



ふくら。今うちとくる美町のふくらに  
をむらりおとー町てふまのハキらんーく。いやく  
のまよひくらトあがて

ととていつり事ハ海とよふ  
こふおよーはーかーふふらこを  
らそふく。まへまへまへまへ

ともあふ

あんげ  
とてふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふらふら

あんげ

いつそあまねがはくーこふも。あん  
よあらまひよーあやほらや

ふらひいふあふらふらふらふらふらふら  
たのしーらーあんなのぐらなをうらうら  
るもめうてふらあへらあーさあふ



あはれ

あはれおはるい

あはれ

あはれおはるい

あはれの涙はあはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれ

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい

あはれおはるい











ぬしぬいなるんあまかうくーちりせんは  
あーちりんせう。きうきうちりちりつとぬー  
あまお祿ぐいがかんが。かあつてがらんを  
んすうん。[五]そアアアおめくが。おーそら  
祿ぐいもうかりてちりまいひのでもま  
いぐまアそアアアあんぐ。[六]アアア  
ちりちりかうんかんなあま。あまいひちり  
まーい帯かひをさうさあんーなけまをま

あまおやんあんー トハキキキ さアおぬー  
の手にあつた命いのちをさあまど トハキキ  
おんてはあまのこ [六]そアアアおちりちり次で  
ごまともうてあまをさうさうが。よく  
ほつてもえや。まごあまーみもあー。たが  
いよんもあれ祿くちりちりなるを。  
こつて何もこつることななともちりちり  
しやア祿くく。[七]ハテぬーでもちりちん





とあり彦後まで  
 花町がたぬいさ  
 石ツ  
あふこよハ他ふ  
ガはハ香こじおと  
 くらむつと

跡とく店はぐけに色遊びの  
 ちー美所と六ら都がらん  
 ちらん花音う歌氏あゆら  
 ち者とたのら来れそくもぐ

葉むうりあぐらまら  
 出と

梅松亭

庭松亭

結る中



跋

北園樓の魂膽小

冊 粉 多 遠 心 此

中 之 信 事 と

お笑ひを之り見申

さ由何と申さる

物々多し信此

人 志 願 と 顔 面 志 願

しと其の席アハをへん

りの佛ニらわー

しと其の席



